



R3. 4. 吉日 和合町自主防災隊

日頃から和合町自主防災隊活動に対し、ご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。2/13、東北地方で大きな地震が起こったように、災害はいつ発生するかわかりません。それぞれが、もう一度災害について考える上で、自主防災隊通信が、何らかの形で皆様のお役に立てれば幸いです。

和合町自主防災隊 隊長 仲田始

「自助」「共助」「公助」って、そもそも何？

自助

個人、家庭など一人ひとりが「自らの安全は自らが守る」自分の手で自身を家族を財産を助ける備えと行動を「自助」と呼びます。これが防災の基本です



共助

隣近所、事業所などの地域コミュニティが「自分達の地域は自分達の手で守る」近隣の皆さんと協力して地域を守る備えと行動を「共助」と呼びます



公助

市、県、国といった行政組織、消防 自衛隊 警察 ライフライン各社をはじめとした公共機関の応急対策活動を「公助」と呼びます



じゃあ 実際には 何をすればいいの？

<個人がすること>

普段から災害に対する知識を身につけ、災害を正しく理解し、自分で何をすればいいのかを考え災害に対する準備をしておきましょう。



<地域がすること>

和合町では地域の防災力を向上させるため和合町自治会長を隊長とする自主防災隊が組織されています。毎年4月に自主防災隊防災計画書が作られ、災害時に、組織的に動ける体制を整えています。また、毎年秋には消防 行政 リハビリ病院 ポーイスカウトと共に町民参加型の防災訓練を実施しています。

<関係機関が行うこと>

各機関とも災害発生からできるだけ早的確な対応が出来るように備えています。また災害発生に備え防災に対する啓発 準備・整備を普段から進めています。



災害が起こった時!!!

自分を中心に考えると、災害直後自分を守るのが**自助**の力です。

自分一人では対応できない状況になった時、頼るのが**共助**です。

それは同時に自分が可能ならば共助に参加するということです。

自分は助かった、次は何ができるかを考える

災害では地域での助け合いが不可欠です

隣近所 地域全体で相互に助け合うということがとても大切です

一般に災害時の助けとなる割合は自助 70% 共助 20% 公助 10%とされています
さらに災害の規模が大きくなればなるほど行政の対応力（公助）は小さくなり自助、共助の重要性は増します。

実際、過去に発生した阪神淡路大震災や東日本大震災において、家屋の倒壊による生き埋めや閉じ込めから救出された人々のうち約 8 割が家族や近所の人によって助けられたそうです。

ひとたび大規模災害が発生するとすべての人が被災者となります。

避難所も役所も機能が停止する可能性が考えられ、公助が停滞する空白期間が生まれます。運営がスタートするまでは、自助と共助で補完せざるをえません。

そうなったとき自分は助けてもらえるのか？ 自分は 助けてあげられるのか？

いざというとき ご近所同士で「大丈夫だった？」と声掛けができるのか？

助けが必要になった時「助けて！！」といえるのか？



普段からのご近所さんとのちょっとした会釈や挨拶が共助**の始まりなのかも知れません。**

そんな日々の暮らしが 防災につながっているんだ、と思います。

いざというときのための 地域之力 地域のつながりということを考えてみましょう。

編集後記

自主防災隊通信は平成 31 年春号より全戸配布の形でスタートし今年で 3 年目となります。本年度からは毎月の防災ニュース（回覧とホームページ）と春秋 2 回、自主防災隊通信（全戸配布とホームページ）の発行を行うこととなりました。町民の皆様にも、さらに防災意識を高めていただければと考えています。近年は地震だけでなく次々と災害が発生しています。災害が起こる可能性は「もし」ではなくなってきました。その時のためにどう備えるのかを、ひとり一人が考えるきっかけになるような紙面になればと思っています。

和合町自主防災隊 防災コーディネータ 松山美佐

